

2026年度第1四半期決算説明会

2026年8月6日

エグゼクティブサマリー

栗原 逸平

取締役

執行役員

日本事業統括 兼 事業開発担当

2026年度第1四半期決算サマリー

前年同期比増収・増益。売上収益・利益は下期偏重の計画に対して想定通りの進捗
中長期成長に向けた施策が着実に進展

■ 2026年度第1四半期実績

売上収益：	690億円	（前年同期比+0.3%）
コア営業利益：	106億円	（前年同期比+9.3%）
親会社帰属四半期利益：	72億円	（前年同期比+22.4%）

■ 事業関連アップデート

アレジオンクリーム：	-杏林製薬との共同販売により眼科領域以外の医療機関へのプロモーションを強化
ジクアスLX：	-製品価値訴求活動を第2四半期より活発化
リジュセア：	-6月1日より近視進行抑制治療薬の選定療養が開始
アップニーク：	-5月15日に日本で眼瞼下垂治療薬として発売
パイプライン：	-日本でロープレッサ（緑内障）の承認を取得 -アジアでリジュセア（近視）の承認を取得

■ 通期の見通し

業績予想：5月12日開示より変更なし

配当予想：年間4円増配の年間42円/株（中間21円/株、期末21円/株）

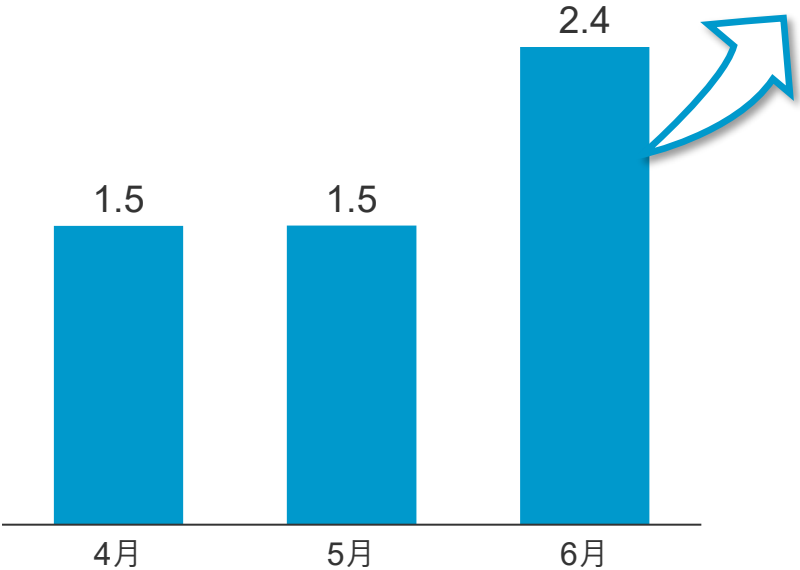
日本における近視・眼瞼下垂の状況

リジュセア

採用眼科数
(7月末時点
/2026年度目標)

約**3,900**/4,000

医療機関への
納品数
(百万本)

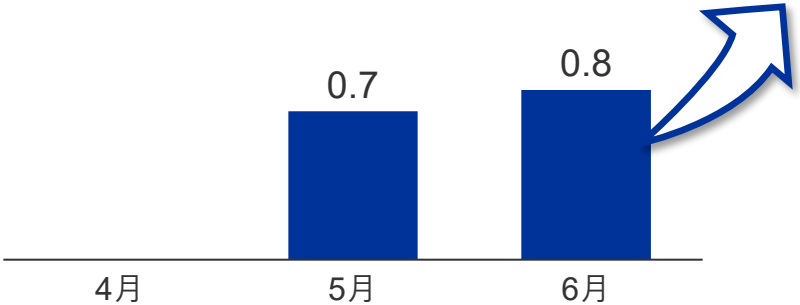


疾患啓発

選定療養

アップニーク

約**4,100**/3,500
(参考：眼科外納入施設約1,900軒)



上市

業績概要

越路 和朗

執行役員

チーフ ファイナンシャル オフィサー

2026年度第1四半期実績

	2025年度 第1四半期実績	2026年度 第1四半期実績
USD (円)	144.63	159.61
EUR (円)	163.81	185.36
CNY (円)	20.07	23.35

(単位：億円)	2025年度 第1四半期		2026年度 第1四半期		
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	687	-	690	-	+0.3%
売上原価	316	46.0%	290	42.0%	-8.4%
売上総利益	371	54.0%	400	58.0%	+7.7%
販売費及び一般管理費	212	30.8%	233	33.8%	+9.9%
研究開発費	62	9.0%	61	8.8%	-2.0%
コア営業利益	97	14.1%	106	15.4%	+9.3%
ノンコア費用	-	-	2	0.4%	-
製品に係る無形資産償却費	22	3.2%	23	3.3%	+5.6%
その他の収益	2	0.3%	1	0.1%	-59.8%
その他の費用	1	0.2%	0	0.0%	-88.2%
営業利益	76	11.0%	81	11.8%	+7.2%
金融収益	6	0.9%	10	1.4%	+52.7%
金融費用	7	1.1%	7	1.1%	-1.4%
税引前四半期利益	75	10.8%	83	12.1%	+11.9%
法人所得税費用	16	2.3%	11	1.6%	-28.5%
(税負担率)	21%	-	14%	-	-7.7pt
四半期利益	59	8.5%	72	10.4%	+22.8%
親会社帰属四半期利益	59	8.6%	72	10.4%	+22.4%
EPS (円)	17	-	22	-	+29.2%
EBITDA	120	-	128	-	+6.2%

■ 売上収益

- 日本での主力品の市場拡大再算定、及びバイオAG¹上市・浸透の影響を EMEA・アジア・中国の成長でカバー

■ 売上原価

- 製品構成の変化により原価率が低下

■ 販売費及び一般管理費

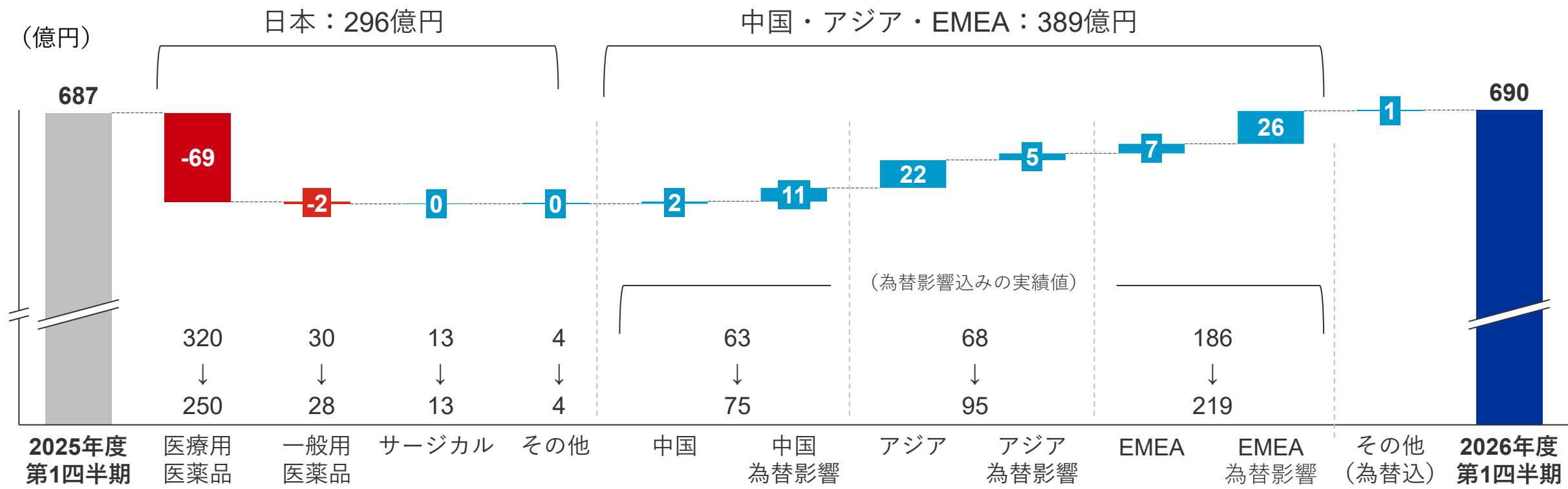
- レジリエントなコスト管理により、為替影響を除くと微増 (+1.7%)

■ コア営業利益

- 通期予想に対して計画通りの進捗
- 増益+9.3%（円建）、+2.0%（為替影響調整後）

1 有効成分、製法などが先発品と同一のバイオ医薬品

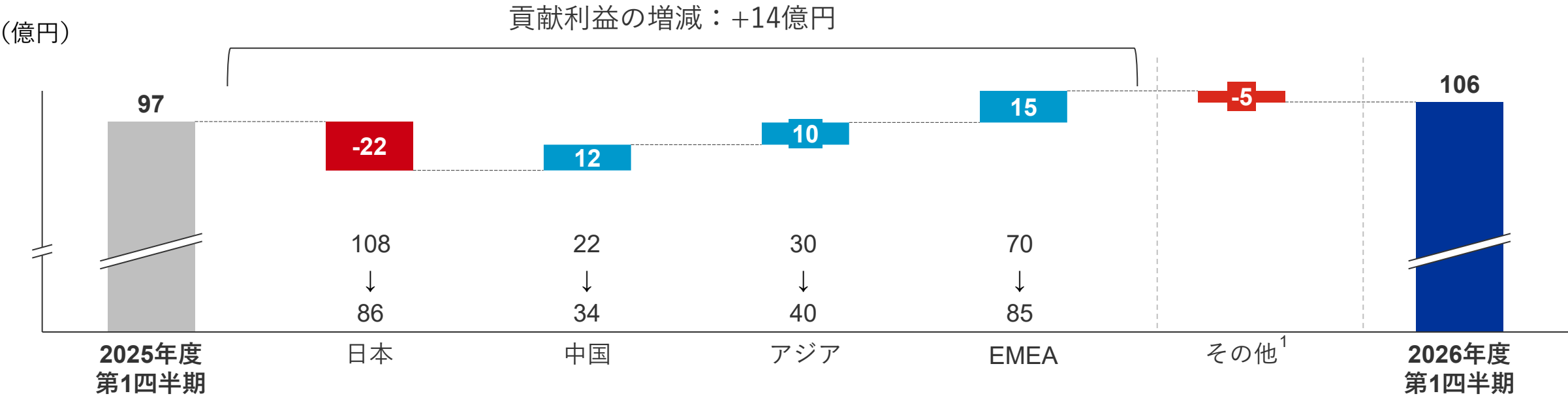
2026年度第1四半期売上収益増減要因



日本	前年同期比 -19.3%：主力品の市場拡大再算定（2025年8月）及びバイオAGの上市・浸透の影響等により減収
中国	前年同期比 +19.5%（為替影響除外 +2.9%）：流通在庫水準（クラビット、ヒアレイン）の正常化により成長軌道を回復
アジア	前年同期比 +39.4%（為替影響除外 +31.7%）：韓国販売提携品（抗VEGF薬）に加え、緑内障やドライアイ製品の堅調な推移が貢献
EMEA	前年同期比 +17.7%（為替影響除外 +4.0%）：緑内障やドライアイ製品、及びRyjuneaにより堅調な成長を継続

7 ※顧客の所在地をもとに国または地域に分類。 EMEA：欧州・中東・アフリカ地域。香港は中国に含む

2026年度第1四半期コア営業利益増減要因



地域事業
貢献利益の増減

日本

前述の減収に伴う粗利の減少（約-19億円）に加えて、DTC等販促費用、人件費の増加（約-3億円）等

海外（為替影響込み）

全地域で製品の価値最大化による売上成長及び費用最適化により増益

（対前年同期比（為替影響除外）：中国 +53.0%（+30.9%）、アジア +34.5%（+27.5%）、EMEA +20.8%（+6.4%））

その他増減

間接部門費用の為替影響等。計画に対しては機動的に抑制

2026年度通期業績予想（5月12日開示より変更なし）

	2025年度 通期実績	2026年度 通期予想
USD（円）	150.79	155.00
EUR（円）	174.71	180.00
CNY（円）	21.29	23.00

(単位：億円)	2025年度		2026年度			
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率	第1四半期 進捗率
売上収益	2,916	-	3,110	-	+6.6%	22.2%
売上原価	1,219	41.8%	1,250	40.2%	+2.6%	23.2%
売上総利益	1,697	58.2%	1,860	59.8%	+9.6%	21.5%
販売費及び一般管理費	890	30.5%	995	32.0%	+11.8%	23.4%
研究開発費	256	8.8%	275	8.8%	+7.6%	22.1%
コア営業利益	551	18.9%	590	19.0%	+7.0%	18.0%
ノンコア費用	12	0.4%	10	0.3%	-13.5%	
製品に係る無形資産償却費	88	3.0%	77	2.5%	-12.2%	
その他の収益	70	2.4%	2	0.1%	-97.1%	
その他の費用	44	1.5%	10	0.3%	-77.2%	
営業利益	478	16.4%	495	15.9%	+3.6%	16.4%
金融収益	16	0.6%	18	0.6%	+9.8%	
金融費用	20	0.7%	15	0.5%	-24.8%	
税引前当期利益	474	16.3%	498	16.0%	+5.0%	16.7%
法人所得税費用	99	3.4%	103	3.3%	+4.2%	
(税負担率)	21%	-	21%	-	-	
当期利益	376	12.9%	395	12.7%	+5.2%	18.2%
親会社帰属当期利益	374	12.8%	400	12.9%	+7.0%	18.0%
ROE	13%	-	13%	-		
EPS（円）	114	-	124	-	+9.1%	18.0%

■ 売上変動要因

日本

- 新製品を含む主力製品の浸透
- 第4四半期における花粉飛散量

海外

- 中国の継続的なリカバリー
- 製品の安定的な調達

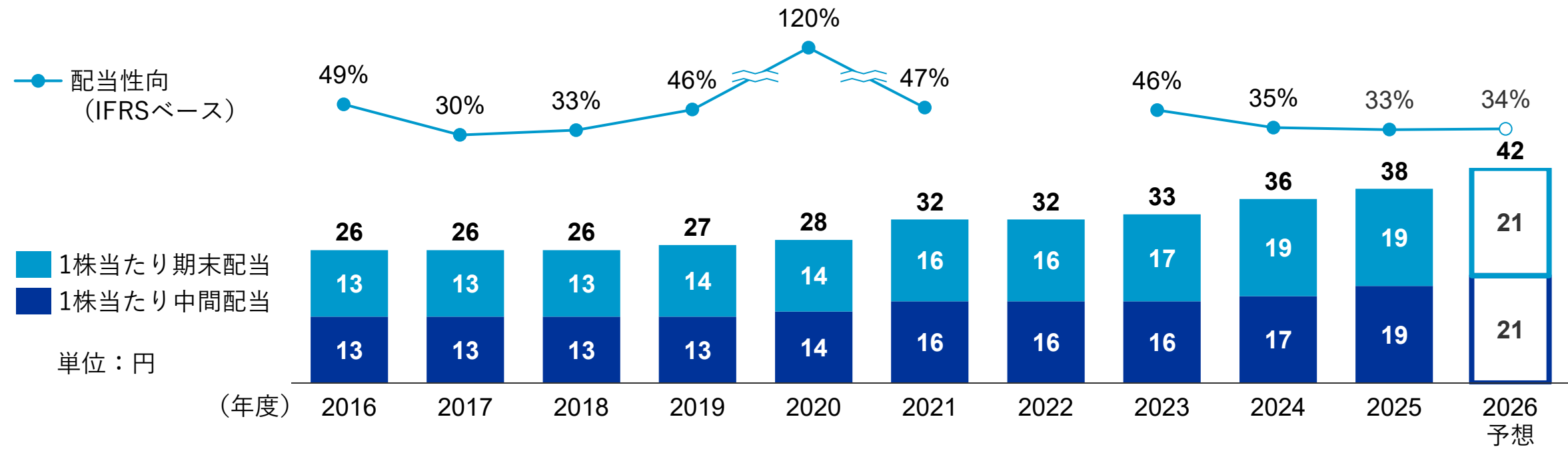
■ コア営業利益変動要因

- 売上・粗利の変動に応じた販管費の最適化により、利益最大化に注力
- 中東情勢に起因するコスト上昇圧力はP&L全体で吸収

株主還元

配当：期初予想の通り年間4円増配の年間42円/株（中間21円/株、期末21円/株）から変更なし

自己株式取得：余資水準、資金需要、及び株価水準を考慮し、機動的に実施する方針



総還元性向 (IFRSベース)	106%	30%	76%	46%	120%	47%	-	106%	137%	118%
自己株式取得金額 ¹ (発行済株式に占める割合 ²)	123億円 (2%)	-	139億円 (2%)	-	-	-	257億円 (6%)	162億円 (3%)	371億円 (6%)	319億円 (6%)

10 1 市場買い付けにより取得した金額 2 各年度の前期末の発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合

研究開発アップデート

ピーター・サルスティグ

執行役員

チーフ メディカル オフィサー

2026年度第1四半期 R&Dアップデート

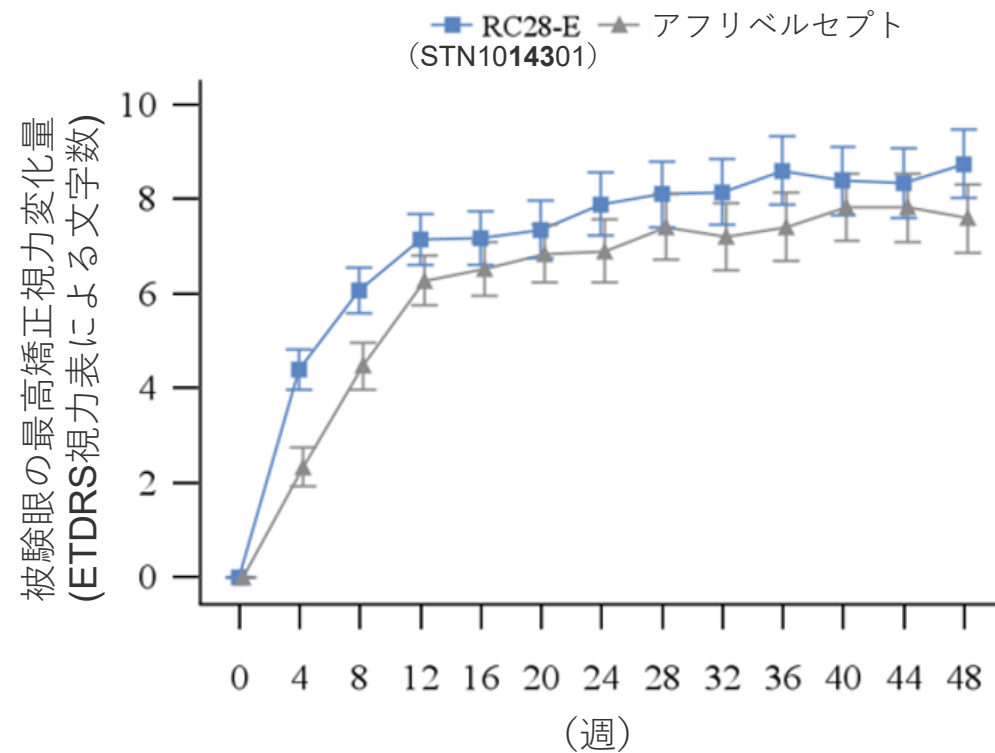
未参入市場への 参入	Eflimrufusp alfa STN1014301/RC28-E	滲出型 加齢黄斑変性	中国でのP3試験で、 主要評価項目達成
	Eflimrufusp alfa STN1014300/RC28-E	糖尿病黄斑浮腫	中国での申請を一旦取下げ。早期の再申請に向け、症例数追加の為の安全性試験を計画中
新規市場の創出	オキシメタゾリン塩酸塩 STN1013800/RVL-1201 アップニークミニ	眼瞼下垂	日本で、 上市 中国でのP3試験で、 LPO¹
	アトロピン硫酸塩 STN1012700/DE-127 リジュセアミニ	近視	アジア（フィリピン）で、 承認 中国でのP2/3試験で、 主要評価項目達成
既存市場の拡大	ネタルスジルメシル酸塩 STN1013900/AR-13324 ロープレッサ®/Rhokiinsa®	緑内障	日本で、 承認
	ジクアホソルナトリウム STN1008903/DE-089C ジクアスLX	ドライアイ	アジアで、 申請
	ネタルスジルメシル酸塩・ ラタノプロスト STN1014003 Rocklatan®/Roclanda®	緑内障	日本でのP3試験で、 主要評価項目達成
	オロダテロール塩酸塩 STN1014100	ドライアイ	日本でのP2b試験で、 LPO
	オロダテロール塩酸塩 STN1014101	アレルギー性 結膜炎	日本でのP1/2a試験で、 LPI²

STN1014301：滲出型加齢黄斑変性を対象とした中国P3試験結果

主要評価項目達成

ベースラインからの最高矯正視力の経時変化（FAS）

（最小二乗平均±標準誤差）



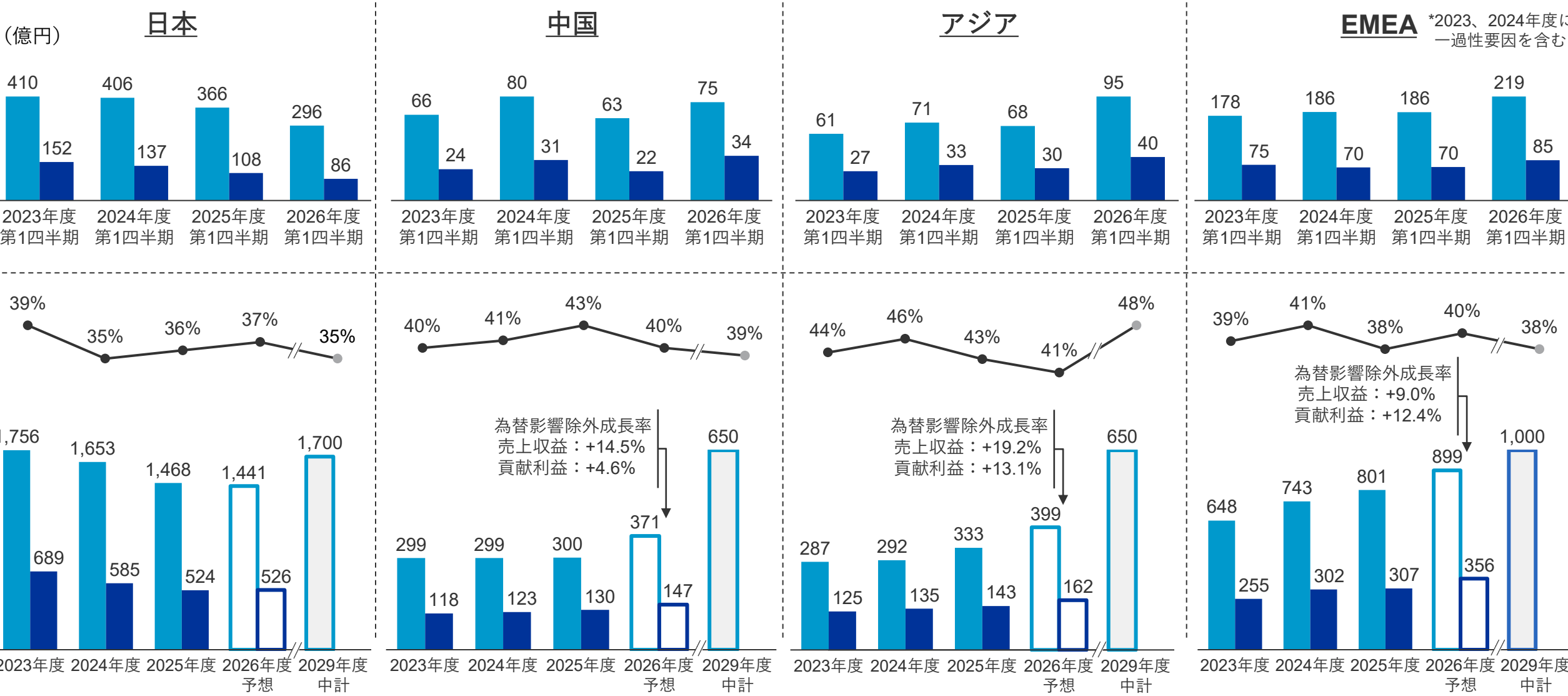
- 滲出型加齢黄斑変性において
2.0 mg RC28-E（STN1014301）は
48週時の最高矯正視力の改善について
2.0 mg アフリベルセプトに対する非劣性を示し、
主要評価項目を達成
- 2.0 mg RC28-Eは滲出型加齢黄斑変性の患者において
良好な安全性及び忍容性を示し
眼及び眼以外の有害事象の発現率や重症度は
アフリベルセプトと同程度であることを確認

RC28-E： STN1014301 のRemeGen社での開発コード

Appendix

地域別売上収益・貢献利益

売上収益 貢献利益 貢献利益率

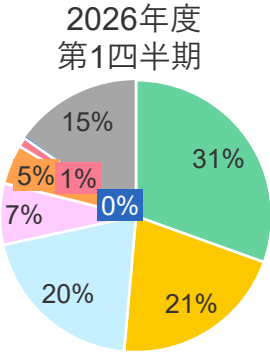


貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したもの。貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致しておりません。香港は2023年度まではアジアに、2024年度以降は中国に分類されています。

2026年度第1四半期 仕向地域別売上収益

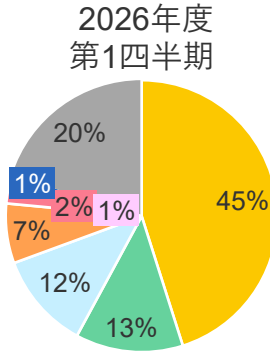
連結合計

(億円)	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期
アイリーア 硝子体内注射液 ¹	201	133
コソプト 配合点眼液	63	74
Ikervis	32	40
その他	391	442
合計	687	690



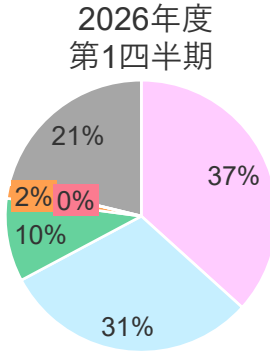
日本

(億円)	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期
アイリーア 硝子体内注射液 ¹	201	133
ジクアス点眼液 ²	16	23
アレジオン点眼液 ³	32	21
その他	117	119
合計	366	296



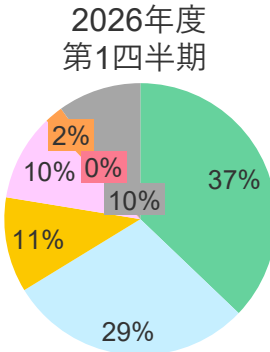
中国

(億円)	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期
クラビット点眼液	16	24
ヒアレイン点眼液	18	19
ベノキシル 点眼液	5	7
その他	24	25
合計	63	75



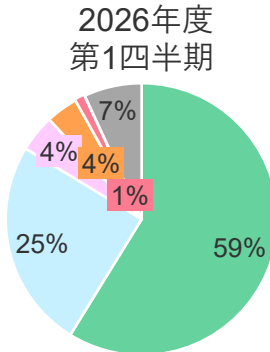
アジア

(億円)	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期
コソプト 配合点眼液	16	18
ヒアレイン点眼液	9	12
Beovu	-	9
その他	43	55
合計	68	95

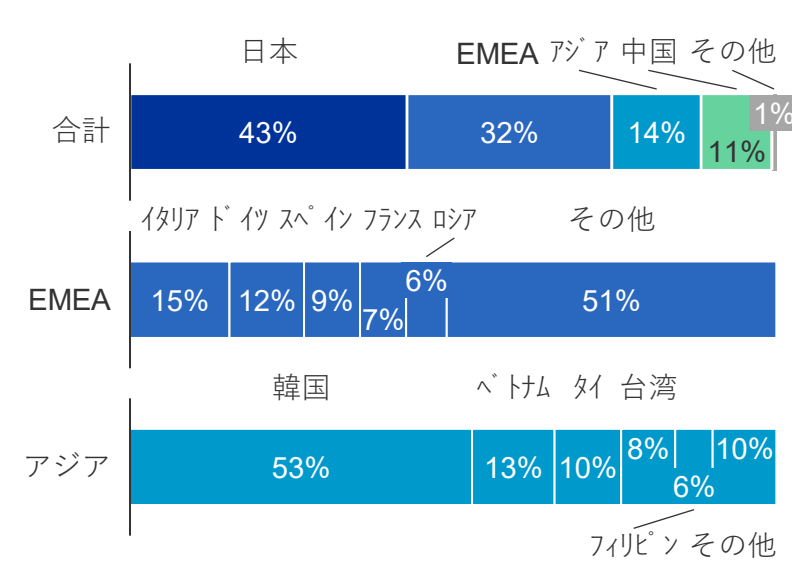


EMEA

(億円)	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期
コソプト 配合点眼液	43	52
Ikervis	27	33
タプロス点眼液	20	21
その他	96	112
合計	186	219

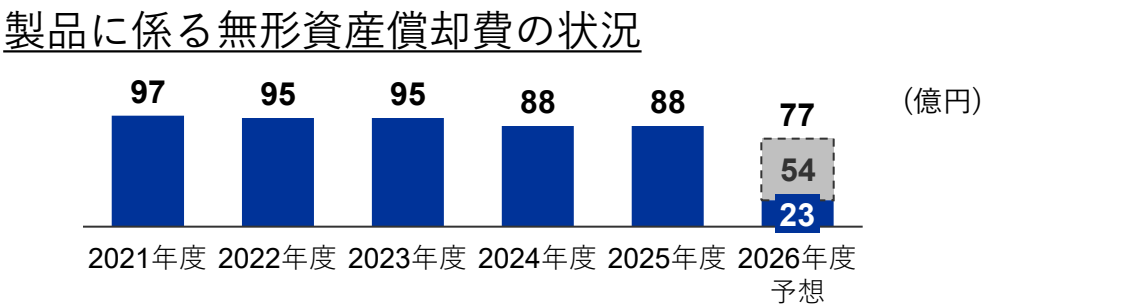
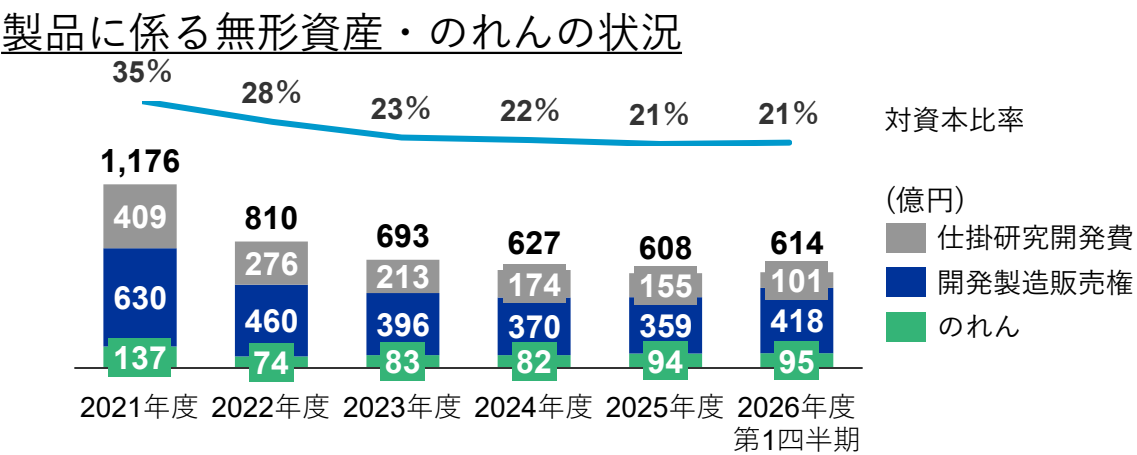
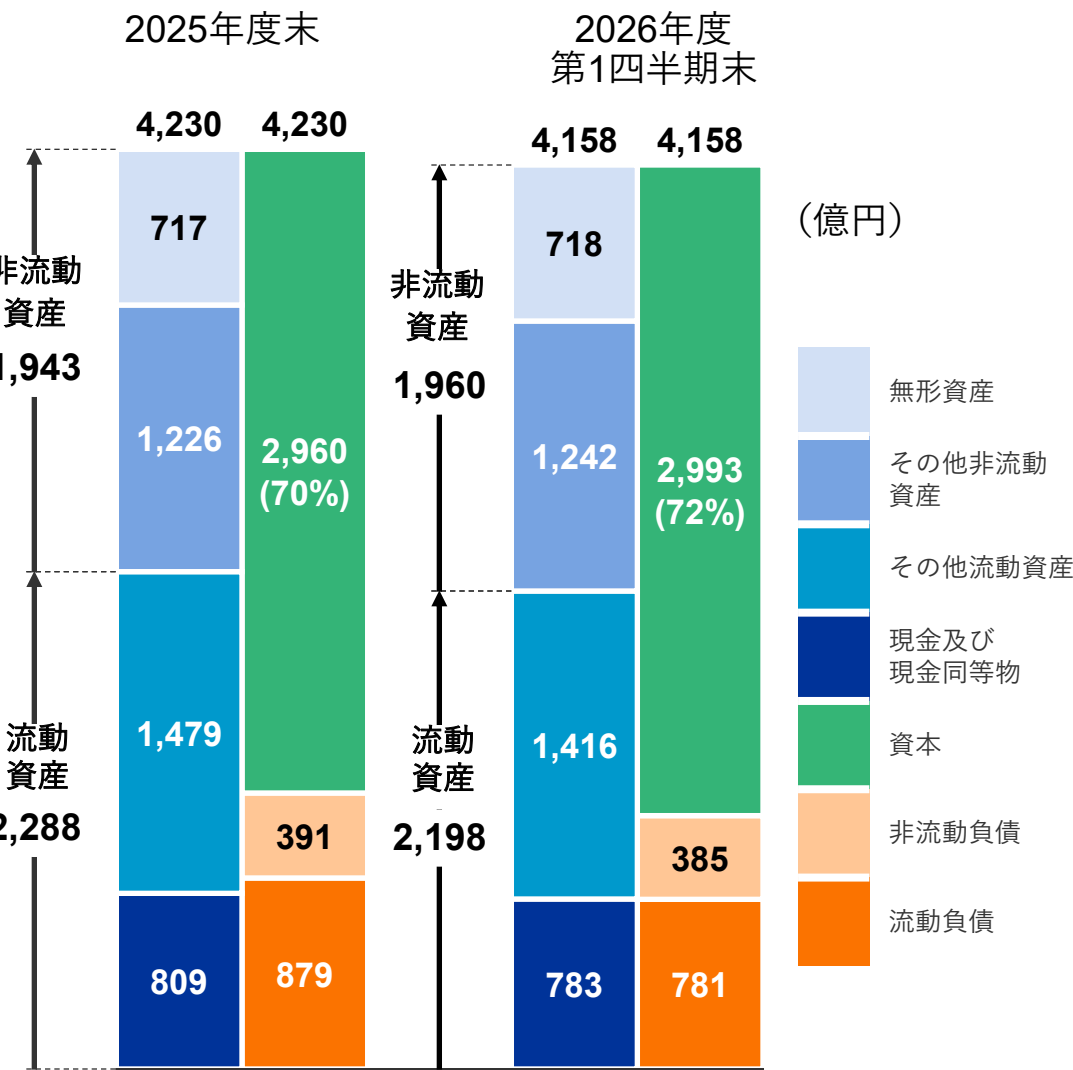


主要国・地域別売上比率 (2026年度第1四半期)



1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品。アイリーア8mg、及びバイエルライフサイエンス株式会社が製造販売元のアフリベルセプト「バイエル」を含む
2 ジクアスLXを含む 3 アレジオン: 提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標。アレジオンLX・アレジオン眼瞼クリーム・エピナスチン塩酸塩点眼液・エピナスチン塩酸塩LX点眼液を含む

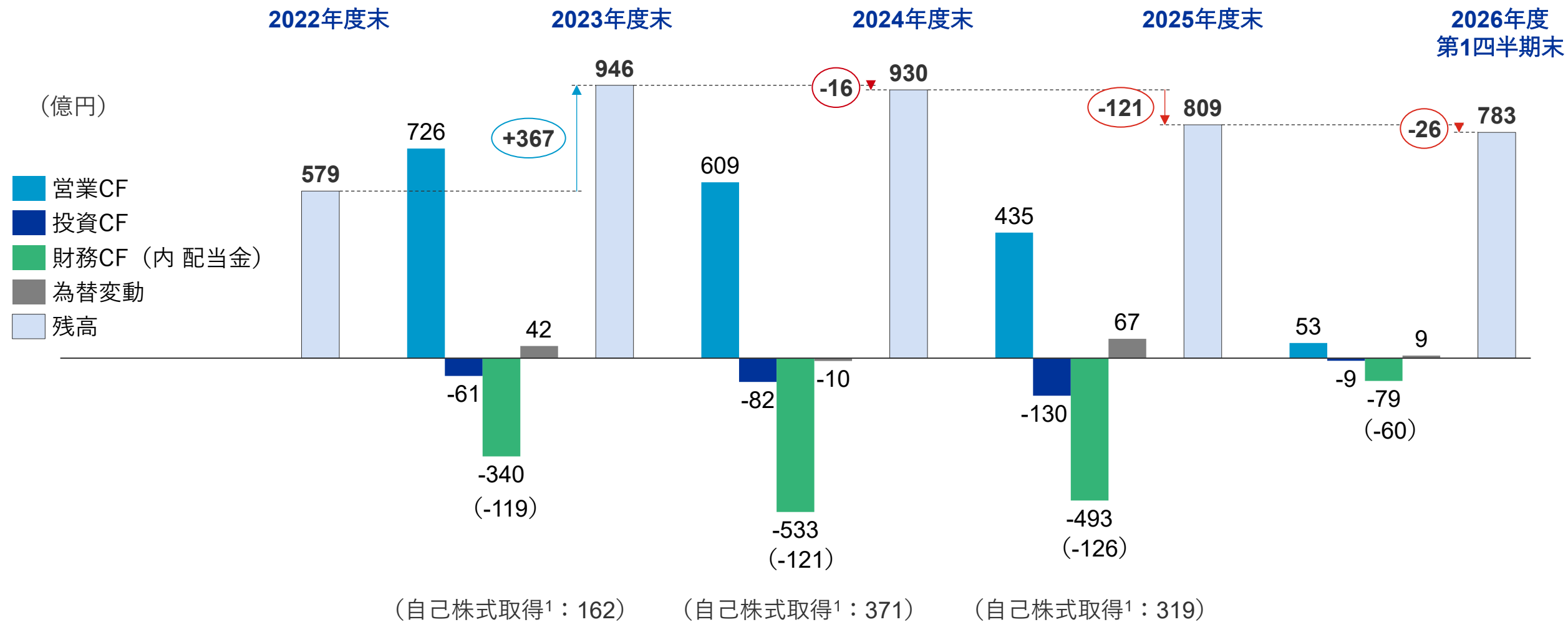
B/Sを含む財務状況



ROE・ROIC・CCC¹

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 第1四半期	2026年度 予想 ²
ROE	8%	-	9%	12%	13%	-	13%
ROIC	12%	-	16%	18%	19%	-	18%
CCC	190日	194日	167日	170日	223日	243日	210日

キャッシュ・フロー



外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

(円)

	2025年度 第1四半期 実績	2026年度 第1四半期 実績	2026年度第1四 半期 vs 2025年 度第1四半期	2025年度 実績	2026年度 通期予想	2026年度 vs 2025年度	2026年度第1四 半期 vs 2026年 度通期予想
USドル	144.63	159.61	110.4%	150.79	155.00	102.8%	103.0%
ユーロ	163.81	185.36	113.2%	174.71	180.00	103.0%	103.0%
中国元	20.07	23.35	116.3%	21.29	23.00	108.0%	101.5%

為替感応度

2026年度業績予想における予想レート比1%円安時の影響
(億円)

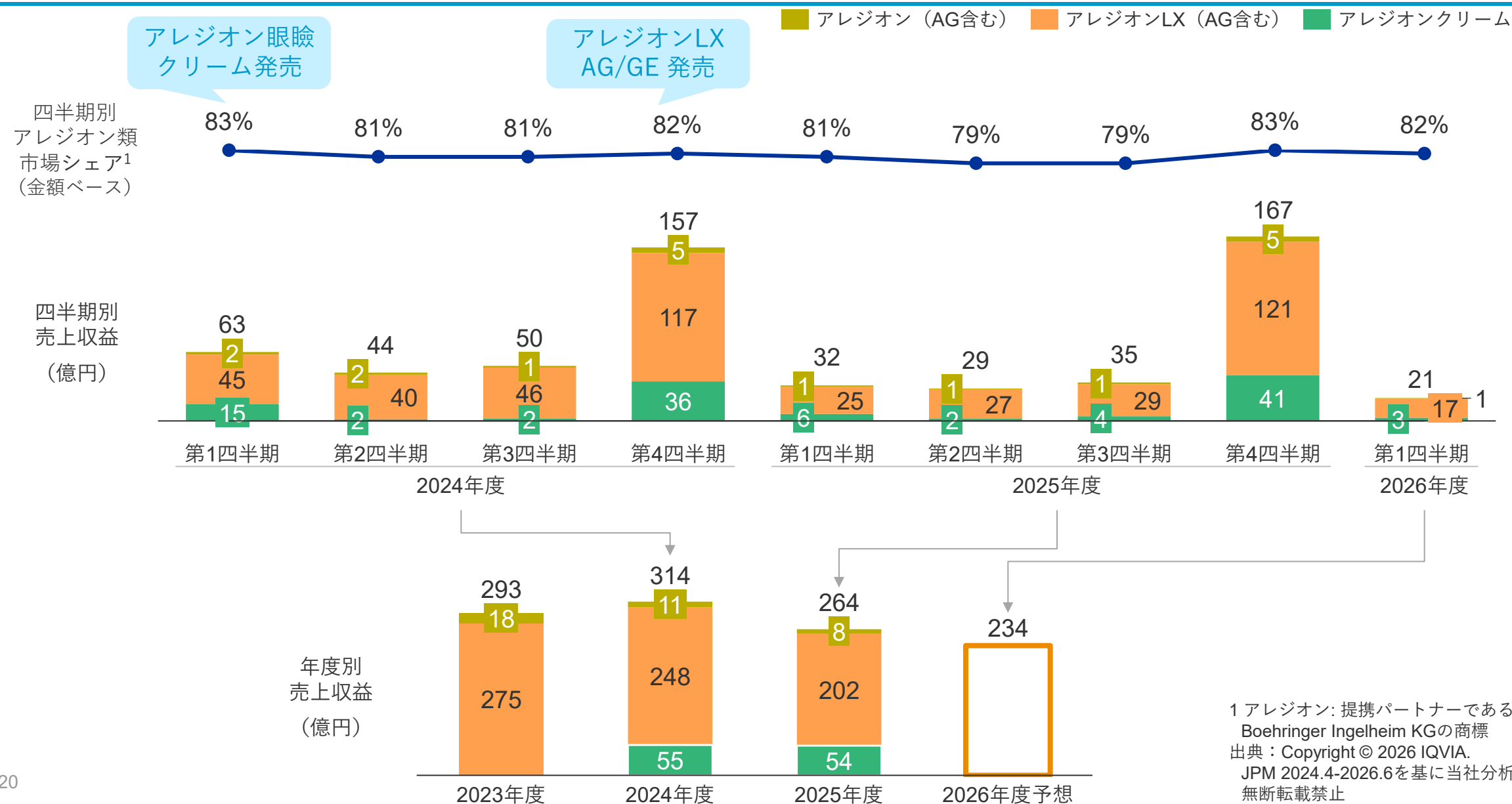
	合計 ¹	USドル	ユーロ	中国元
売上収益	+15	+0.3	+8.1	+3.6
コア営業利益	+2	-0.4	+1.2	+0.8
営業利益（IFRS）	+2	-0.6	+1.0	+0.8

2026年度第1四半期実績為替影響
(対前期レート) (億円)

	合計
売上収益	+42
コア営業利益	+7
営業利益（IFRS）	+6

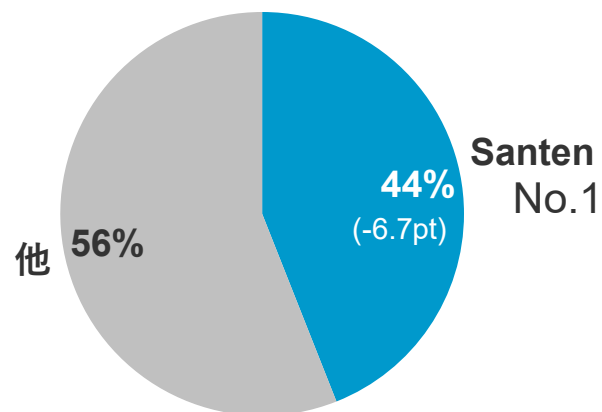
1 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値（小数点以下四捨五入）

日本でのアレジオン類の現状

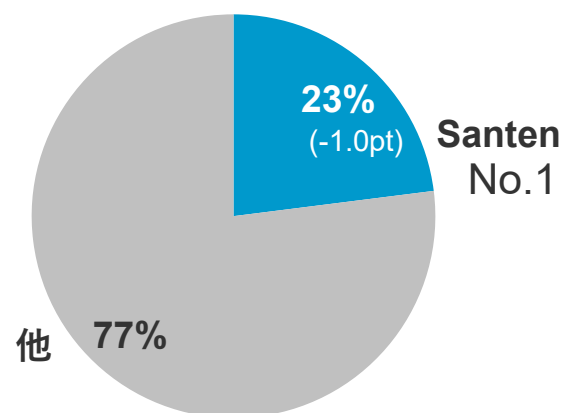


日本医療用眼科薬 市場概況 (2025年7月-2026年6月累計)

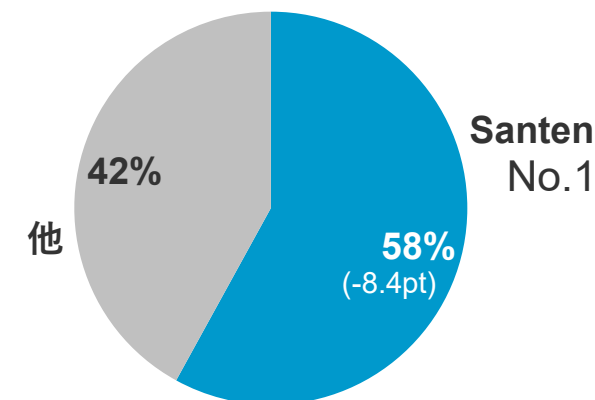
合計：3,522億円



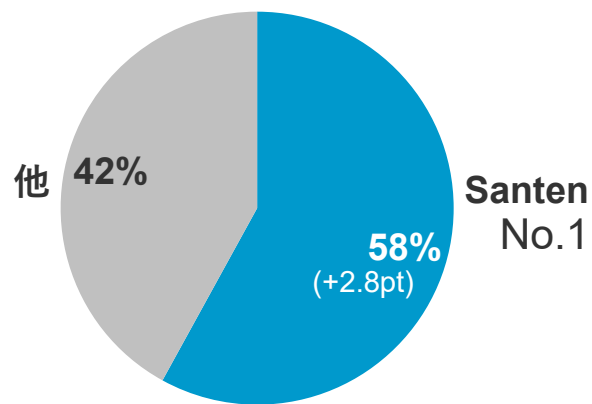
抗緑内障治療剤：707億円



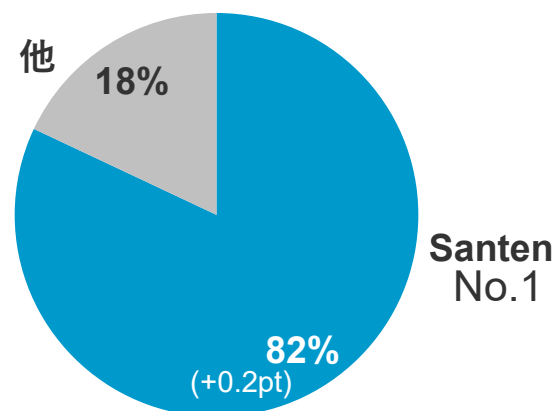
VEGF阻害剤¹：1,283億円



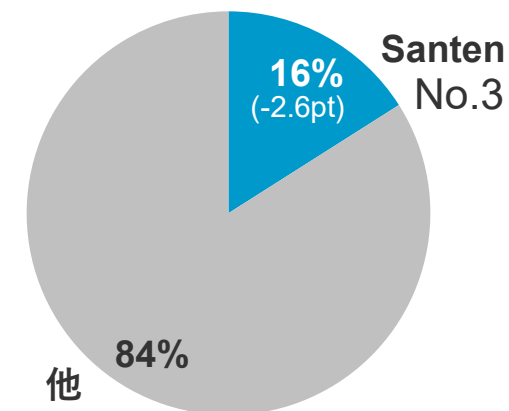
角膜疾患治療剤：293億円



抗アレルギー点眼剤²：391億円



抗菌点眼剤：46億円



¹ 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」「アイリニア8mg」）及びバイエルライフサイエンス株式会社が製造販売元の「アフリベルセプト「バイエル」」を含む。販売会社（参天製薬）ベースでの実績。

² 眼瞼クリームを含む

出典：Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2024.7-2026.6を基に当社分析 無断転載禁止

グローバル開発の状況①

(2026年7月現在)
青字は更新情報

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 ¹	
緑内障	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN1011702	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
	ラタノプロスト Catiolanze	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：上市
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認
	ネタルスジル メシル酸塩 ロープレッサ®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：2026年6月 承認 計画：2026年度 上市
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩・ ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014003	日本	現状：P3 (主要評価項目達成) 計画：2027年度 P3終了

¹ 試験プロトコールが社内承認されたものののみ記載。

グローバル開発の状況②

(2026年7月現在)
青字は更新情報

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：上市
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2027年度 申請
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	中国	現状：申請 計画：2026年度 承認
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014101	日本	現状：P1/2a 計画：2026年度 P1/2a終了
ドライアイ	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了
	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	STN1008903 DE-089C	アジア	現状：2026年5月 申請
翼状片	ニンテダニブ	STN1014200 CBT-001	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了

グローバル開発の状況③

(2026年7月現在)
青字は更新情報

屈折異常領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ、Ryjunea	STN101 2700 DE-127	日本	現状：上市
			中国	現状：P2/3（主要評価項目達成） 計画：2026年度 申請
			アジア	現状：2026年5月 フィリピンで承認 計画：2027年度 上市

網膜疾患領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
糖尿病黄斑浮腫	Eflimrufusp alfa	STN101 4300 RC28-E	中国	現状：P3 (2026年6月 申請を取り下げ。追加の臨床試験を計画中)
滲出型 加齢黄斑変性	Eflimrufusp alfa	STN101 4301 RC28-E	中国	現状：P3（主要評価項目達成）
網膜色素変性症	jCell	STN 6000 100	—	現状：jCyte社P3試験計画策定中

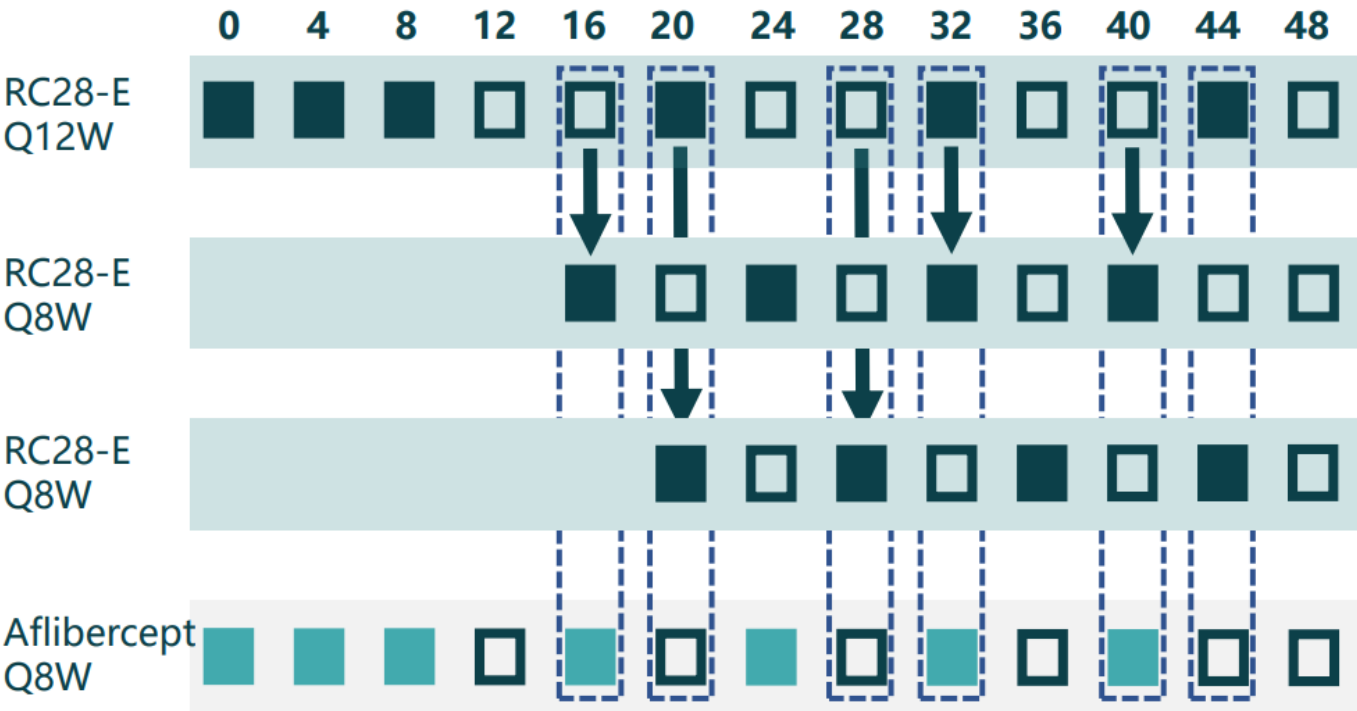
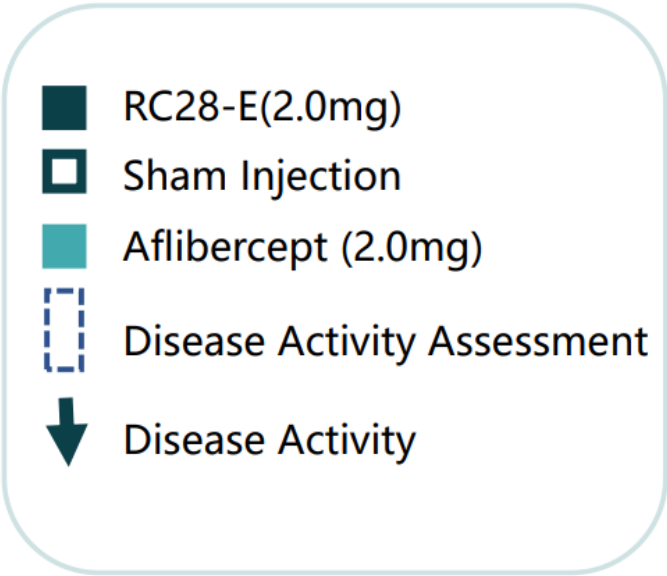
グローバル開発の状況④

(2026年7月現在)
青字は更新情報

その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩 アップニークミニ	STN101 3800 RVL-1201	日本	現状：2026年5月 上市
			欧州	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2026年度 申請

STN1014301：滲出型加齢黄斑変性を対象とした中国P3試験プロトコール



- 総数432例を無作為化割付。RC28-E(STN1014301)群215例、Aflibercept群217例
- 非劣性マージン：4文字

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

